

【第 2 期 第 4 回 浅川流域連絡会】

議 事 録

平成 23 年 2 月 28 日

東京都 南多摩西部建設事務所

【第2期 第4回 浅川流域連絡会】議事録

開催日時：平成23年2月28日(月) 18時30分～19時50分

会 場：東京都 南多摩西部建設事務所 4階会議室

1 開 会

事務局

時間になりましたので、ただいまから第2期の第4回流域連絡会を開催させていただきます。本日は寒い中、お忙しい中お集まり頂きまして誠にありがとうございます。まず何点か恒例ですけど確認させていただきます。配布資料につきましては、今回は会議次第と4枚ほどの。それと浅川クリーンデーのそれだけです。出席者につきましては、事前に風邪を引いるので休まさせていただきますとのご返事もあり、都民委員が14名のうち7人参加ですね。団体委員の方は7名のうち4名の出席。行政委員につきましては、座長を含めまして8名のうち6人ですね。トータル29名のうち17名の参加でございます。それとあと録音については冒頭から恒例ですけど、あとでホームページにアップしますので、ご了解頂きたいと思います。なお終了につきましては8時を予定しておりますので、宜しくお願い致します。それでは早速ですけど、議事次第に移らせて頂きます。座長進行の方、宜しくお願いします。

2 議 事

座長

みなさんこんばんは。第2期第4回の浅川流域連絡会開催致します。まず会議次第に沿ってですね、1番、今後の活動計画について。まず事務局さん。

事務局

それでは次第の後についております、今後の活動計画についてということで説明させていただきます。座って説明させていただきます。事前に座長とご相談致しまして、今回の議論のたたき台としての資料という風になっております。今後の方向性の提案を含んでおります。1番、2番は今までの流連の成果。判ったこと。1番はこれまでの活動で判ったことや意見ということでいくつか集約しております。(1)で検討課題が多岐にわたっているということ、でいろんな議論がされている。直轄区間の低水護岸とか、護岸擁壁タイプ、緑化ブロックとか、あと旧川の整備について、河川工事、これは毎年年度の始めに説明させて頂いてますけど、あと草刈とか。2番目につきましては、各委員における課題認識に差異があるということ。河川整備計画とか多自然川づくり、市民と協働の維持管理。これは任意ですけど、

団体の方は多摩川流域の浅川部会に参加されているので、かなり課題の認識に差異があるのではないかなと。3点目は各委員の意見がどのように行政に反映しているのか目に見えないと言うのですけれども、活動の成果が目に見えない。踏み込んだ議論がなされていないというようなことを集約いたしました。(1)でテーマを絞った議論の場を設ける必要がある。2番目で工事の計画段階で住民の意見を反映する場を設ける必要がある。3番目で治水だけでなく、環境についてより深く議論する場が必要であるということで、集約致しまして座長の方から。これは第2回8月19日、去年これらを踏まえまして、分科会形式にて個別の議論の場を設けることを提案するというので、2番目にここで前回の流連第3回になりますけれど、ここで他の流連の実態を皆さんにお知らせした所です。都における流連につきましては、14あります。浅川流連が14番目。20年の3月ですね。うち分科会につきましては3つ。野川、石神井、柳瀬。このうちの分科会の設置状況につきましては、野川につきましては3つ。生きものとか、水環境、なっとくとか水量について。石神井川は3つ。生きものとか親水、水質・水量。柳瀬につきましては、2つ。河川環境とか水環境。分科会開催につきましては、年5〜7回。各分科会についてばらつきはありますが、これくらい。ポイントとしましては、委員全員がいずれかの分科会に属しまして、全体会は分科会の成果報告の場と位置づけております。なお2点目で分科会設置までに3、4期目の設置と非常に長い期間を要しているということでございます。1枚めくって頂きまして、これからが本題なのですが、浅川流連の分科会について課題ということで、大きな特徴と致しましては、次のようになっています。対象河川が15と非常に多いため、特定河川とか課題別のテーマが絞りにくい。なかなかテーマが今まで議論したのですけれど、決まっていない。あと全体会と分科会の役割分担をどうするべきかです。分科会の構成、全員参加、任意にするのか、複数、2つできれば両方とも参加していいのかどうかということです。分科会の開催頻度、何回開催したらいいのか、分科会にもよるのでしょうけれど、昼か夜どちらの時間帯がいいか。場所につきましては、当事務所で可能な限り提供したいと思っております。一番肝心なことなのですが、リーダーの選定って書きましたが、選出方法です。これにつきましては、1番の課題となるかなということです。分科会の進め方ということで方向性の提案なのですが、2〜3の分科会を設置致しまして、全体会は分科会の成果報告の場と位置づける。2点目、委員は全員分科会に参加する。但し、行政委員につきましては、特定分科会に属さず、要請に応じて参加して資料提供等を行なうと。分科会のテーマによると思うのですが、すべてに行政委員が関係してしまいますので、それにすべて参加するのは非常困難だろうなということで、提案させて頂きました。3点目で、各分科会では、各リーダーを中心に運営を進めるということです。やはり市民と団体の自主的活動を尊重するというので、開催時期とか回数、場所等をリーダーを中心に進めて、事務局につきましては、会議室の準備とか案内等の事務処理を行うことです。あとはやり方なのですが、いろいろ皆さん集まって頂くのは大変なので、メール等を活用とかです。各委員が自分で入手した資料とか写真などを持ち寄って、議論して頂いたらいいかなというよう

な提案でございます。あと分科会の設置例と致しましては、前回までのご意見等を参考にして、羅列しているだけで、これにしなさいと言うのではなくて、あくまで参考として。1点目、2点目につきましては、前回のご意見、要望が多かったものを書いてあります。環境に配慮した川づくり分科会です。これについては、多自然川づくりとか工事検討分科会これは非常に多かった。あとはまちづくりと川づくり、総合治水対策と書いてありますけど、もうちょっと幅広く川づくりを研究して行きたいというような。それとあと生きものと水環境、水質・水量につきましては、前ページの他の分科会をそのまま書いているだけであり、あくまでも参考です。1枚めくって頂いて、今後のスケジュールということで、いくつか課題がございまして、それを今日課題解決がどこまで出来るのかわからないですけど、それに至らなかった場合につきましては、分科会の準備会ということで、市民、団体の方の代表選出によってはもう少し煮詰めた分科会ができるようにについて検討して頂いたらいかかな、来年の5月とて書いてありますけれど、そこで準備会を行なって少し議論して頂いて、それでリーダー、テーマが決まって全体会で発表して頂くと。そこで8月で題目まで決まれば、分科会を立ち上げて、何回かいろいろやって頂いて、来年の3月で一応これで第2期目が終わりますので、分科会の概要報告をして頂ければということで提案させて頂いてます。あくまでもたたき台ということで、本日の議論の参考にして頂ければということです。以上です。座長よろしく。

座長

今、事務局さんの方から説明して頂いた部分でございます。分科会をまず準備会でもうちょっと参加を募って、準備会を、それでどのテーマを1つとしていくのかというようなことを準備会で揉んだ方がみんなの意見がもうちょっと汲み取れるのではないかなということで、この準備会はできれば代表というのは変ですけど、出席して頂ける方に募って出席してもらえればという構成で、2期の中でなんとか立ち上げて、少しでも分科会を。それで、実際に動いてもらおうという主旨でございます。3期目で分科会が動き出すと、来年煮詰った議論、テーマがしっかりしたものが出来るのではないかなというふうなことで提案させて頂いております。この内容についてご意見、ご質問を頂けるというふうに思いますが、いかがでしょうか。

団体委員

ちょっとよろしいでしょうか。

座長

はい。団体委員さん。

団体委員

分科会って言うのは、どのように分ける分科会なのでしょうか？

座長

今、今日たたき台が出てますけれども、議事録を拾い読みしまして、ページ数がないのですが、ちょうど 2 枚目になるのですが。今後の活動の分科会設置例に一応参考として載せておいたのですが、でも 5 つも作ったらどうなのかとか、このうちとりあえず 2 つやっておこうかというのを準備会で。あるいはこれとこれとを一緒にしてもいいのではないかというのを準備会で煮詰めて、参加しやすい状態あるいは煮詰められる状態にして行こうという企てです。

団体委員

ちょっとわかりにくいです。これだと今までやってたこととあまり進歩がないって言うんですか。本体は浅川が入っていないです。小さい川だけが書かれている。

座長

そういう風には、イメージはしていませんけれども。

団体委員

我々からすると優先順位として、八王子の川のまずどこを着手していったらいいのかということを、国交省が管理している浅川と東京都が管理しているのとかを、東京都の方だけがここに書いてあるのです。

座長

そういう風に読めます？分科会設置例。

団体委員

はい。何かこれで見ると。

都民委員

よろしいですか？

座長

はい。都民委員さん。

都民委員

八王子の中、日野にもあったのですが、15 河川があります。主体が浅川になっています。それ以外の支川の主流ってというのがここにあるわけです。湯殿川にしても山田川にしても川口川にしても。数からいって相当あるわけです。地域のそこを流れている川の流域の町会の住民は、その川に親しみを持って生活しているわけです。ですからいろんな僕も調べたのですが、校歌の中にも小学校の校歌の中には、川口川に水のきれいな川口川とかいう風にやっぱりまだそれぞれの地域の故郷として、川として、代々受け継がれているような川です。やっぱりそれ全体として考えていかないと。1 本の川だけじゃなくて、浅川本流だけじゃなくて、よその川もそれぞれ。その川については、例えば、地域の小学校の環境学習の時にわざわざ浅川まで来て観察するわけじゃないです。その地域の川で、1 番適した川でいろいろと観察をして、やっているのが現在多いわけです。そういう風なものを考えた方がこれからの活動だと思います。そう思います。

座長

はい。まったく本流だけとか。

団体委員

ちょっといいですか。今おっしゃった、それは全部が大事です。小さい所をやっちゃいけないって言うているわけではない。ただ優先順位は我々が今、八王子のイメージダウンになる。中心市街地の浅川が全然今汚いわけです。イメージが悪いのです。その原因っていうのは浅川なのです。そういう所をまずきれいにして、小さい所もちろん地域の人達と一緒にやってやればいいわけです。

都民委員

別にね、浅川だけを否定するわけじゃなくて全体を考えていこうと。

団体委員

もちろんそうです。優先順位として、今まで見ていると中心市街地に対して全然議論がされていないわけです。

都民委員

そうです。

団体委員

その辺はちょっと皆さんと意見が私違うかもしれない。

座長

基本的には分科会を皆さんが集まりやすく、内容を詰めてもらうことでは私がスパット言っちゃいけないのかもわからないけれど、最大公約数的な会にならざるを得ないと思います。

団体委員

だからこの会が、東京都が主催でやっているからかもしれませんけど、なんとなく中心市街地がほとんどおいていかれちゃっている。

座長

他にございますか？

団体委員

実粋の浅川の本川以外に支川が 15 あると書いたのは、直接浅川に流入していない。だけでも日野、八王子が地域の中から多摩川に合流している川も含んでいるようなのです。ですから浅川本川だけに流れ込む河川はだいたいそうですね、11 本位のものなのです。でもやっぱり多摩川流域といった視点で言うと浅川の地点だけでなく、八王子と日野が流れている河川っていう視点にたたないと抜けちゃう部分があると思うのです。例えば大栗川なんかはちょっと向こうの川ですから、浅川にはもう関係していないから抜かそうよっていう意見もあるようですけれども、そこをちゃんと絞って浅川本川だけに関するものという立場になって調査するのか。それとも多摩川に濯ぎ込む川として日野を流れている河川をちゃんと含んで、ということを考えるのか。まず、それから絞らないとぐちゃぐちゃになるかもしれないです。

座長

分科会を立ち上げようっていう中でそれってどうしても大事なことになります？

団体委員

要するに多摩川の支川として浅川流域と考えられています。だけれども、谷地川なんかは違います、直接多摩川に入ります。八王子なんか日野もちょっと入ってますけども。上流部がそこが源流部でそこから流れ出す川として多摩川に入っているわけです。それで浅川本流っていうのは、本当に浅川本流だけで、上流端までだいたい東京都と八王子市の管理が 30.1 キロの所が陣馬山の下の方で上流端となってそれ以上は普通河川として全部地元の自治体の管理になっています。そこを踏まえた上で、あそこの支川がみんな急流で全部浅川に注いでいる河川が 14 もあって、これはもう浅川にとって大変な話なのですから、それだけはちゃんと伝えるという風にやるのか、ちょっと私も悩んでたのですが。東京都さんの方はどう思ってますか。

行政委員

この出発として、やっぱり浅川圏域の河川整備整理計画が出発しているということと、あと南西建という事務所が一応日野と八王子を所管していると。そういうことを考えますと、やはり今までのベースであり、谷地川とかは直接的流入ですけども一応入る。そういった一応基本的には河川整備計画の方では浅川圏域と一応定義されている所が概ね今集まっていたいただいている方々の出身の場所なども踏まえますといいのではないかなという感じはするんです。

団体委員

そうするとかなり絞って取り組めるのではないかと思います。例えば湯殿川も支川が兵衛川ですから、それも 1 つの流域として考えているのですから。じゃあそれは湯殿川と同じにしましょうねとかそういう考え方はできますけど。山入川もそうです。支川が小津川ですから。じゃあその 2 つ一緒にして考えましょうという考え方もあるんですけども。

座長

今、15 河川すべて扱っちゃおうという気持ちでやってますけど。分科会。

団体委員

じゃあ谷地川みたいに浅川に関係なく。

座長

当然です。

団体委員

そうですね。じゃあ大栗も含むわけですね。

座長

はい。当然です。圏域ですから。

行政委員

大栗川は多摩ニュータウンの開発と絡むということがあります。

団体委員

そうなるでしょ。そうすると谷地川は川口川の向こう側ですから。

団体委員

谷地川は南西建の管轄です。

行政委員

そうですね。

団体委員

大栗川はじゃあ南西建の管轄ではない。

行政委員

そうです。実はあちらは多摩市が所管しています。町田にある事務所が所管しています。

団体委員

じゃあそれは切っても向こうがやってくれるわけだからいいわけですか。

行政委員

そうですね。

座長

はい。団体委員さん。

団体委員

話が違うのですけど。この会そのもの1期が2年です。もう半年過ぎていて、あと1年しかなくて、月1回ずつ集まったって12回で、勉強会で終わっちゃって、今まで勉強だけで何か成果に手ごたえがあるのではないけれど、成果が出たのか。やってきたことが勉強しただけで、何も次に活かされていないっていう所での分科会の立ち上げの話だと思うのです。そうすると、次の話になっちゃいますけど、浅川プロジェクトがどういうものかわかりませんが、主旨がどういうのかわからないし、行政間の話もよくわからないけども、例えば浅川を日野と八王子を流れる浅川全体として例えばサイクルロードやなんかを繋げて、多摩川の合流点から高尾までとか陣馬山まで繋げるような話に持っていこうとか。それぞれの川の所に水が、例えば川口川とか南浅川とかときどき水が出ちゃったりしています。そういう所やなんかの水量の問題とかそういう所をどうにかしてほしいというようなこととか。日野市と八王子市で流域条例を作してほしいとか、そういうようなことを直接八王子市とか日野市なりに働きかけるような結果に持っていけるような方向の分科会と

というか勉強っていうかそういうことをした方が、やったっていう感じを持てるのではないかなと。これだけ勉強しました。勉強したらそれで終わりみたいな感じにできるだけならないように、どこかで、こう受け止めてもらえる先をまず見つけたいなと、いう風に思うのですけれど。

座長

まったく異議ないです。異議ないです。

団体委員

その通りですね。

座長

その通りです。そういうのを分科会でやっていきましょうということです。他にございますか。はい。団体委員さん。

団体委員

今までやってきて、年3、4回では工事にしろ水量の問題にしても、それから長年水のことをやっている人、それからここで初めて来た人といろんな議論になって噛合わない点もあったりしているわけです。それで何年も過ぎてきているわけです。一番問題なのは、やっぱり年3回か4回しかないということです。それからその中でいろんな話がごちゃごちゃになって、いつも尻切れトンボになるということです。ですから分科会というのは、例えば工事、多自然分科会とそれからとりあえず水量、水、それから河川環境の問題、それからサイクリングロードの問題も含めていいと思うのですけど。そういうのを分科会で議論して、それでも5、6回ではたいしたことはないと思うのですけど。それでも今までよりは絞れるわけですから、相当前進だと思います。だからあまりこれもあれもなんてではなくて、今より少し前進するためにやるのだということで。それも議論がいつもめっちゃくちゃであっちいたり、こっちいたり、護岸、水、植生とかいろんな話になってしまうので、それを分けて議論をして一定の方向で1年、2年やっていくというのは。それでまた次の年、その次に成長して、またさらにアップしていけばいいのではないかなと。まず分科会を作ってそこでスタートすることの方が大切だと思うのですけど。13本、14本の源流があって、それを1つずつなんてできるわけないのですから。だからどういうことをそこでできるかということが、我々の力量を問われているわけですから。行政の人に任せるわけではないのです。自分達でやらなきゃいけないのですから。それでやってみるという事が大切だと思います。

座長

まったくそんな主旨でございます。他ございますか。

都民委員

いいですか。

座長

はい。都民委員さん。

都民委員

やっぱり分科会と言っても、例えば東京都主催ですから、工事だったら都の管理している河川工事を毎年やるわけですから。その工事のやり方なんかを結局出来上がってから見せてもらうのでなくて、こういう風にしたらいい、どうだろうって相談しながら一緒にこう意見を言っていけるような、工事をしていく。また環境の問題が、やはり浅川っていうのは水が少ないです。その東京都の管理している所よりさらに上流の市町村の管理している所の森林ですとか、雨水のかん養なんかの所をやらなくてはいけないわけですが、やっぱりそういう意味で工事だとか環境だとかいうグループ、分科会で。今年やる重点項目では、15 本ある河川のうち重点的にここの河川の上流の森林をこうしたらいいのはいかとかそういう議論を具体的にやっていって、少しでも成果が出てくるようなことをやっていったらいいのではないかとそう思いますけど。

座長

はい。都民委員さん。

都民委員

ちょっとまだ自分の中であまり固まっていないのですけれども。いつもこういう場で協議する時に、議論が噛合わないのは、やっぱりその 1 つ 1 つの課題についてのいわゆるレベルが違うことが 1 つあると思うのです。要するにある方は相当高いいろんな知識を持っておられる。だけどある人はそうでもない。それからもう 1 つは思いがそれぞれ違う。どちら側から物を言うのかとその違いもある。それから今その水、川というものを考えた時の問題意識。多自然なのか多自然型でないということが問題なのか。いろんなその思いがまた違う。これが何回やっても、あるいはこちら側と行政側との見方も違う。だから大きな目でいうと、ここで分科会を開くということは自分の思いとか、問題点とかそれぞれ分かれて検討しましょうよという意味合いのことと、分かれてはみたけどもこんなレベルの人とではしょうがないと。やっぱり噛合わせるためには、分科会にしてもそのレベルの違いを是正するような勉強会みたいなものも合わせてないとやっぱり噛合わない。その辺をどうしていくのかということが 1 つあるのではないかなと。どうすればいいかちょっと今

私はわかりませんが。何回か年間 4 回とか 5 回位しか会わないとすれば、分科会と他に勉強会というのもあるのではないかな。そうしないと何やっても合わない。要するに、やっぱりレベルが違うのです。一口に言うと。お互い。

都民委員

でも、あるテーマについて議論するっていうことはやっぱり必要だと思うんです。

都民委員

それは重要だと思います。さっき都民委員さんも言ったようにやっていくうちにだんだんとレベルが合ってきて、議論も噛合って、進歩していけばいいですけど。

都民委員

やっぱり考えも変える人も出てくる。変えることも有り得るという中で話していかないといけないと思うのです。議論ですから。

都民委員

それはいいのですけど。

都民委員

だから例えばここ最近、日野に住んでいますけれど、浅川の工事 4 箇所やっていて 3 箇所がほとんど終わりましたけれど、昔の川原に戻っているのです。流れが真ん中にきたし、石ばっかりになったし。僕の覚えている多摩川がそうだったように礫川原なのです。草が生えてたり、木が生えてたりしていないわけです。そういう格好になっています。また何年か経つとまたなっちゃいますけど、今は川の中央に水が増して、昔の浅川的な川になっているなと思って。昨日ちょっとぶらぶら歩いて見ましたが。それは草が生えていて、木が茂っている方がいいという方もいるわけです。やっぱりそういうことについては議論して、河川はどういうためにあるのか。河川工事はどういうためにしているかということの中で、いろいろ議論をしたり、考えをやっていいのではないですか。だから今度は浅川なんかでも河川敷の高水敷の所に自転車が走れるようにあるいは堤防の上、スピード走りに来ます。自転車をあの中走らせるとか。そういった議論もして、できるのではないですか。それができるかどうか実現するかどうかは知りませんが、議論した中ではいろいろやっていくということは、僕はいいことだと思いますけど。

都民委員

私が言いたいのは、議論することはいいことだと言っておられましたけど。確かにそのとおりなのですが、議論した結果が、成果として結びついていかないとあまり意味のない

ことだと思うんです。毎回ここで議論だけしているのです。それが成果に結びついていない。それはなぜかという、今言った思いも違う、レベルも違う、見方も違う。そういう人たちが集まって、いくらやったって議論はします。でも成果に結びついていかないのじゃないかな。その成果に結びつけるためにどういうことをやればいいのかという議論をしないとイケないのだと思うのです。

都民委員

まあ、そう思います。結果として。だけど何か出てくるのはないのですか。

都民委員

それからもう 1 つは、毎年こうやってメンバーが変わるわけです。その度にまた一からやり直しになってしまう。そんな感じなんですけど。

座長

2 年に 1 回はね。はい。都民委員さん。

都民委員

私思うに、やっぱり各委員のその思いという、何をやりたいっていう思いがあまりにも違いすぎるのだと思うんです。分科会を作ってその中で、大きな枠組みの中から、その中でいくつもやっぱりやりたいことが出てくると思うのですけども、その分科会ごとに集まった人達が、今年はじゃあ他のことはやめてこの 1 つだけで成果を出すまでやろうよとか、そういう方向に持っていけない限り、結局いつまでたっても私はこういうことがやりたいのだ、私はこういうことがやりたいのだ、だけでまとまりが付かなくなると思うのです。ですから今の所に 5 つばかり書いてありましたが、案として、このうち 2 つくらいに分けてですね、上から 2 つの半分ですか。川づくりとまちづくり川づくりっていうのを一色丹にして。そうするとその中にはいろいろな思いも、自分はここをやりたいという人達がたくさんいますから、そこに入っても結局別々なことを話していたら、いつまでたってもまとまったことはできないということです。その下のものも 3 つとも水質とか生きものとか水環境っていうものも 1 つにしたら、私は水環境ことがやりたいんだと。それにはこういう細かいことをやりたいとか。生きものの方だったら、生きものが生きるためにはどういうことが必要なのか。私はそっちがやりたいと言ったら、結局議論になって何もまとまらないと思うのです。だからその中のうちのじゃあ 1 年間、2 年間あと 1 年半しか残らないかもしれないですけども、そういうことの間で、今回はこの分科会はこれを 1 つにしてやろうじゃないかというような方向を出さない限り無理だと思うんです。なかなかまとまらないと思うのです。やっぱり何かをやろうと言うのだから、自分のやりたいことが 2 番目になるか 3 番目になるか。それはやはりその分科会で 1 つ決めたらいいのではないの

ですか。みんなで協力して、それをより良くやっていくためにはどういう勉強をしながらやろうとか、そういう方向で進まない限りちょっと無理ではないかなと思うのですけれど。

団体委員

ちょっとよろしいですか。

座長

はい。団体委員さん。

団体委員

私はこの 2 期メンバーの皆さんとお話していると噛合わない。八王子市って結構面積が広いし、皆さん住んでらっしゃる所が全然違うのです。私は中心市街地に 78 年住んでいます。ところが中心市街地の人はほとんどいらっしゃらないのです。なんとなくそのいい所に皆さん住んでらっしゃるから。緑の多い。そうすると自分の近い小さい川をそこをもっときれいにしたい。我々は全体をきれいにしたいんですけど、まず中心市街地の浅川を粗末にしてたらだめです。その話が通らないというのは、もうメンバーが違うわけです。まずメンバーの人選から変えないと無理です。

都民委員

あのいいですか。

座長

はい。都民委員さん。

都民委員

私も今回初めて浅川流域連絡会に参加したわけですが、最初に感じたことは、行政って言いますか、南西建が仕事をする上でその仕事の正当性を得るために、失礼だったら許し頂きたいのですが、南西建が市民委員とか、団体委員の方の同意を得るためにやっているのではないかと思いました。私の場合は、個人的に考えれば、河川とはどうあるべきか、多摩川も含めて、浅川の本流も浅川に流入している支流も含めた形で、市民としてどうあるべきかを考える会だろうなと思って入ったわけです。でも、どうもそれとは違う感じがちょっと悩んでいるのですけど。しかし、そうは言ってもこの連絡会に参加している大方の皆さんは河川とはどうあるべきかとか、どういう風にしたらいいのか考えておられると思います。そういう意味では、それを一つに括ってしまうやり方は切り口が人によって異なる場合もありますから少し無理があると思います。しかし、折角ワーキンググループ、

あるいは分科会を作ろうという気になったのなら、何とか2つでも3つでもワーキンググループを仕上げて、会のメンバーがそれぞれやりたいワーキングに参加し、小さいテーマでもいいから活動を開始する、そういう方向にもっていくということが非常に大事なことだと思います。又、団体委員の方のその活動自体が一つの分科会的だという風に私は理解しています。そういう面からするとそこも一つの分科会的な力になるでしょう。そういうことを含めて、この折角作った流域連絡会の中で分科会をやってみたいし、又、分科会を是非作って頂きたいという風に思います。

座長

他はありますか。はい。都民委員さん。

都民委員

浅川流域懇談会というのはね、一番問題は、ど真ん中にある河川が国の管理なんです。周りに流れる中小河川のことを我々が話しているんです。ここってなったとしたら、ほとんど東京都の管理でしょ。落合川にしろみんな出来るわけです。

浅川も一緒に扱うのでなくて、浅川は国交省の管理なので、本流が、だから浅川のことについてそういう風にしたいとおっしゃったって、ちょっといけないみたいなことになっているし。そこらがやっぱりもうちょっと国交省側も一緒に入ってきて、浅川の本流のことも考えながらやる方が浅川流域としてはいいのではないかと思うんですけど。そういう風に思います。

団体委員

いやこれは国交省だけでなく、八王子市としても。あれの前回やったのを全部見ました。浅川に関しては何もやってない。美辞麗句でこう文章に書いているけどね、浅川に関して何にもない。いかにその局地思案しているかどうか分からない。本当に不勉強です。

座長

ちょっとここ1年、2年位、もともとこういう意識なんです。本流も入ってそれで東京都河川の支流も入ってというのが、別に本流をはずすっていうのがこの会じゃないのです。ただこの会が始まる前に連絡会があって、そこは集中的にかなり本流をやっているのです。今度支流の方にといいことであれしてるんですけども、でも京浜さんに来ていただいているのもその本流をはずす、二次河川だけをやるっていう意味でこの会は出発してないはずなのです。間違いなく。

団体委員

中心市街地のことは、この議題には載せてないわけですよ。東京都がやってますから。

私も何年か前にもここに参加したことあるんです。そのときから東京都の所の小さい川を対象にしてやっているのので我々としては中心市街地をなんとかしなきゃいけないという所で、その辺の所があまりにセクショナリズムでやっていると。

団体委員

たぶんフィールドワークのことを言ってるのだと思うんです。

座長

フィールドワーク。歩かないからか。

団体委員

フィールドワークっていうのは、基本的に、その全部を見てからですよ。

座長

いろいろ本流か支流かというのは、ここではすべてを扱うときちゃんと宣言しておきます。

団体委員

我々市民側から見れば、基本的にはまず中心市街地の浅川を中心にして、あと主流も含めて絶対みると。

座長

ただ4回のこの連絡会だけでは。そのうちフィールドワークをやったりすると3回とかで最初と最後はまとめとか挨拶とかってなると、やっぱり十分な議論ができないから今みたいなお話が出てくるのだと思うのです。それで分科会というので、都民委員さん達のいいお話ありましたけども、かつ分科会の中でも1年とか2年ぎゅっとこれだけをとというような話は、これは当然そうなることが全体でそれをぎゅっとというのはなかなか難しい所がありまして。分科会だと団体委員さんがおっしゃったとおりでしやすいです。

団体委員

中心市街地ってどこからどこまで。

団体委員

旧市内ですよ。大和田から鶴巻橋までです。

団体委員

団体委員さんも私も中心市街地に住んでいます。あなた1人だけ中心市街地に住んでい

るのではない。

団体委員

いやいや。それにしてもあまり意見が。

団体委員

川が荒れてまして、団体委員さんが中心市街地、市街地って言ってますど、流域で考えるべきであり、河川敷の中に花壇作ったり、公園的にしちゃったり、ああいうのを早くどうにかしたいというのを常々思ってますけど、やっぱり一帯で考えるべきだと私は思うのです。

団体委員

花壇を作るとか言っても、やっぱりきれいにしようとする思いが薄い。だからあなたの考え方がおかしい。それをいいと思ってやっている人もいるわけだから。

団体委員

それを管理している国土交通省も許可をしていないのだから。私だけがまずいと言っているわけじゃない。そこをまず変えなきゃいけない。頭を。団体委員さん。

都民委員

そう。変えていかないと。

団体委員

むしろ僕らから見ると、浅川の中に鳥の種で育った木やなんかが、いっぱいあるじゃないですか。ああいうのをまず切るっていうことを、ところがあれは切っちゃいけないとかなんとなく。

都民委員

同じ意見です。

座長

そういう中で事務局の方で一応準備会をやります。そこで少なくとも事務局と私がそこに入るということになっているようですので、あとその他のメンバーの方は。

事務局

任意で構わないと思うのですが。

座長

任意で。準備会ですから。

事務局

その時に自分のご意見とか、どういうのを作りたいというのを出して頂いて、準備会ではもうそろそろテーマを決めていかないと先に進まないのかなと。肝心なのはリーダーを決めないと。

座長

それはまだいいのではなのですか。準備会をやって。その準備会のやり取りの中です。そのためにみなさんに一応参加不参加の連絡みたいなのは。

事務局

全員の方にしようかなと思っております。TP とは言え、任意の 1 回分ですので皆さんに同じような内容でご連絡致します。

座長

参加をお伺いすると同時に最初の会合の日がその日に書いてあるのか、ないのかを別にして、準備会に参加のお知らせをして集うという形をとるそうです。その時はぜひとも宜しくお願いします。主旨は今のような主旨ですので、やっぱりそこで少しでも。そこに集まった方達が集まりやすい時間で、その準備のくどいようですけども、そのバックアップは南西建さんの方でできるだけとります、ということですから。できればそういう風にして頂いて、議論をして頂ければと思います。行政にこの部分は団体委員さんがおっしゃったようなそういう風なこれを前もって申し入れをするというような所まで行ければ非常にいいことだと思います。宜しくお願いします。では連絡が行きますので、皆さん是非とも準備会に参加して。宜しくお願いします。よろしいですか。では続きまして、その他に入ってよろしいでしょうか。浅川プロジェクトについて、八王子市さん。宜しくお願いします。

行政委員

はい。八王子市の環境整備課です。本来なら課長が出席する予定だったのですが、所用がありまして、私、〇〇と申します宜しくお願い致します。前回のお話でプロジェクトの話が出て、今回は資料という話もあったのですが、まだ具体的なお話ができる状況にはないので、今回は私の方から口頭でご連絡させて頂きたいと思います。一応ですね、厳しいご意見もあったのですが、去年夏くらいから関連する 6 部 12 課の若いスタッフで分科会み

たいなものを立ち上げて、浅川についてという議論させて頂きました。それで11月に理事者にご報告をさせて頂いて、これからの浅川という形で方針というか具体的なハードはどうするかという議論は当然今後になるのですが、浅川についてこういう風にしていったらいいのではないかというのを報告させて頂きました。内容としてはですね、浅川の魅力を高め、街の活性化を図りたいと。そういった目的を通して23年度位から進めて行きたいなというそこまでの話しかできないのですが。

都民委員

ちょっといいですか。

行政委員

はい。

都民委員

浅川プロジェクトというのは、八王子市の中のプロジェクトですか？

行政委員

はい。そうです。

座長

今の話ですけど、部内で6人。外部の方もいらっしゃる？

行政委員

部っていうのは、市の庁舎内にあるまちづくり系とか道路系とか、あと我々の水循環とかそういったセクション。そこから若いスタッフを集めてプロジェクトチームを立ち上げた。市の内部です。

団体委員

ちょっと今の話、補充します。

座長

はい。

団体委員

実は八王子市で副市長が積極的にこれを作り上げてまして、先ほどの話で若い方で。八王子市は河川課っていう課がないのです。他の市はあるのですが。八王子市はないので、

水循環室が管理していますけれど。そこが中心となって。それが今度座長になりまして、若い人、部長級とか各会でもって浅川について議論してきますと。我々(団体委員)が言われていることは、重要なことでそれは議題に挙げていろいろ審議やりますということでスタートしてくれているのです。我々から見ると、今八王子市っていうのは、高尾山があるから高尾山が一人歩きしているわけです。中心市街地が空洞化になっちゃった。それはなぜかって言ったら、浅川の水は汚いし、あそこは車の抜け道になっていますし、だから夜になるとごみを捨てちゃう。だから車を停めて散策ができて、あそこをハイキングコースとして御陵だとか空堀川の高砂に行けるように観光に結びつくような、あそこをもっときれいにして行こうではないかということで今動いてもらっているのです。それがまちづくりの原点です。

座長

アメニティ。

行政委員

アメニティ施設っていろいろ現地だったり、そういうのって当然河川管理者が、こう浅川があるべきだとかうあったほうがいいと具体的な報告とか。

座長

だいたい大きな中身は今団体委員さんが補足してくれた話だと、快適性を浅川に求めるというのが主体です。悪いことじゃないのです。

行政委員

浅川の魅力をより高め、皆さんにいろいろ協議してもらいたいなということでございますので、まあそういうことになるのかなという気がします。

都民委員

浅川環境というよりは、浅川の美化という感じですか。

行政委員

当然自然の形態もございますので。

都民委員

その視点というのは美化の方を中心に。美化からこう入っていくという感じですか。

行政委員

美化と言うとどういった意味でしょうか。

団体委員

要するに美化であり、クリーン化であり。

都民委員

そうするとちょっと環境問題とはちょっと距離があるわけですか。

団体委員

そんなことはないです。

行政委員

町の活性化ということになりますので、きれいにすることによって町の活性化が図れるのであればそういうことかもしれないし。

団体委員

若い方は勉強中ですから。

団体委員

あの湧水ネップレス構想というのとは別なのですか。

行政委員

別です。

団体委員

これは職員だけで作っている？

団体委員

そうです。そうです。

団体委員

略式化とか意見を聞くというのはないのですか、職員だけだと期待できないんですけど。

団体委員

それはこれからやりますから大丈夫です。

座長

鴨川のようにしたい。

行政委員

それはまあそういう風になったらいいのではないかなという意見はございました。ただ京都と八王子では歴史とか状態が違いますので。

座長

他ございますか。人がたくさん集まってきて、浅川の川沿いの商店街が少し潤ってみたいな。

行政委員

結果的にそうなれば。そういうプランになると思うのですが。結果的にそうなればいいと思います。

団体委員

市民の意見もぜひ聞くように。どうもちょっと遅れた話なので。市民の方がやっぱり河川については進んでいますから。ここは、取り入れたり議論し合う場を作ってもらいたいという要望ですけど。是非お願いします。

座長

昔とんでもない漫画を描いた本人が私です。

都民委員

結局は市街を活性化させたいと。そのためには浅川はどうあるべきかと。こういう論議がしたいということです。

行政委員

そうです。

都民委員

だから市街の活性化がテーマなのですか。

団体委員

ちょっと違う。視点がね。だから余計危ない。

団体委員

座長さん。あれ一応マップにちゃんと残してありますから。あれすごかったです。

座長

それは余談ですけど。一応そういうことで、6人がこっちで広めるとか、さっき団体委員さんが言われたような、もうちょっとオープンになる可能性はないのですか。セッションはそこまで考えてない？

行政委員

当然23年度そういうふうに進めて行きますので、その中では使って頂く機会はあると思います。

座長

せっかく、八王子市さんはこれからまた基本構想作るわけでしょ。一緒にやるのも。

都民委員

よろしいですか。

座長

はい。

都民委員

その構想はいつ頃、広報に載るのですか。

座長

このプロジェクトがオープンになるのはいつですか。

都民委員

だいたいだね。

行政委員

方向性としてはなるべく早くお知らせしたいとは思っているのですが。ただ具体的に何をするかとなると、関係機関の調整もございましてそういう所が整わないとなかなか全ての発信ということではないと思います。

都民委員

だいぶ変化が激しいからね。

団体委員

市内は道路事業が土手の上に車を走らせているでしょ。いろんな意味でセクショナリズムによりできないのです。

座長

はい。ということですので、ちょっとよろしいですか。では続きましてありがとうございます。団体委員さんですか。クリーンデー。

団体委員

A4 の紙で浅川クリーンデーを渡してあります。浅川流域連絡会が始まる前の多摩川流域懇談会、浅川部会からの申し送り事項として浅川流域連絡会でもクリーンデーを続けてくださいということで、やってきているのですけれども、新しい委員さんにとってみれば寝耳に水というようなお話だとは思いますが、ただ、市民フォーラムを設立の時に日野市の小学生からチラシにも書いてありますが、いくらごみ拾いをしてもごみがなくなるということで、非常に訴えかけられました、せめて八王子市でももう少しごみ拾いをしましょうという話になった時にこの前進の会でまた話し合いをしまして、日野市と八王子市の河川の清掃状況を聞きました所、行政が日野市の方が関わっている回数が多かったので、日野市の方に合わせて、八王子市の方も清掃しましょうということで、日野市のクリーンデーに合わせて一緒にしましょうということです。同日清掃ということでやっています。予定としてはもう少し大きく、どんどん大きくなっていく予定だったのですが、なかなか大きくはならないのですが、とりあえず続けていくことが継続は力だろうということでやっております。是非今後も続けていきたいと思っています。4月17日というのは日野市の方からクリーンデーの日が決まりましたということで連絡がありました、今年は4月17日に10時から八王子市の部分につきましてはチラシの下地図の部分、非常に狭い部分で申し訳ないのですが、ここでやることになっております。今、ここからなかなか広げることが出来なくて限界なのですが、裏側が実施の計画案です。いつも日野市の方には、日野市の清掃の方に是非出て頂いて、八王子の方にはできればご協力願いたいと思っています。一応八王子市では、ちょうどその範囲が東南部環境市民会議の方の区域になっているので、東南部環境市民会議さんのご協力があってやっていますので、共催という形にしています。八王子市さんの方ですが、それで結局北野駅のKEIOストア前の所に朝9時に集合というのは、9時に集まって、集積場所の所でゴミ袋や何かを配ったりするのですが、離れている所、長沼橋の下流の所やなんかまで行くのにちょっと時間がかかったりすることもありまして、一応9時に集合ということにしています。日野市さんの方のお話では、京浜さんの方からいつもゴミ袋を頂いているのですが、仕分けされて京浜さんもなかなか苦しい状況で、ゴミ袋もなかなかもらいにくくなっているというお話なのですが、これは大

丈夫でしょうか。わからない。いつも日野市さんの話だと去年の末だか今年の始め位に来年度のゴミ袋はどの位ということで、毎年京浜さんの方に出しているということなのですが。八王子市さんが今まで来てくださったわけではないので、わからないと思うのですが、八王子市さんが京浜さんの方からゴミ袋をもらってきて頂いて、ここに集合場所に持ってきてくださることになっております。もし、一応、京浜さん方で今までもらっていたのですが、そこら辺の所は、行政間で。もしも、らえなかったら八王子市さんのことも是非ひとつ出して頂ければいいなということと。あと八王子市さんの方は、前はこの場所は、館清掃工場の範囲だったので、館の方に収集をお願いしてたのですが、館は今閉鎖になりましたよね。そうすると戸吹の方に収集をお願いすればよろしいのでしょうか？

行政委員

すいません。そこら辺ちょっとどういう清掃の区域になっているかちょっと把握してないので。

団体委員

八王子市は今清掃工場っていうか市内のこういった南大沢なんかは違う、ニュータウンの所は違う、北野で集めたりします？

行政委員

いい加減なことを言っちゃっても申し訳ないので。

団体委員

じゃあまた後ほどご連絡しますので、その収集の方はどちらにしたらいいかちょっと教えて頂きたいと思います。それからいつも八王子市の広報に載せて頂いているのですが、去年と同様の形で広報の4月号に17日より前に出して頂けるように連絡をお願い致します。雨天の際にあまり雨が降っている場合には中止になりますので、そのための連絡ということで、担当者連絡先を東京都さん、八王子市さん、東南部環境市民会議さんに教えて頂きたいので、連絡をしてください。

団体委員

ちょっといいですか。行政委員さん。浅川を管理している水循環室があるのですから、こういうのは1団体だけじゃなくて、1部分だけじゃなくて、定期的にね、4月にやるぞ、8月にやるぞと決めて、いろんな団体が一斉にそこにかかれるように。それからこの地域も東南部だけでなく中央地区だっていろいろあるわけです。そういうのが一緒に出来るようにひとつ循環室の方で。

行政委員

あの今のクリーンデー以外のことですか。

団体委員

いやだから、こういうものをもうちょっと他の団体も一緒になって参加して全部が一緒にできるように、そういうクリーンデーを、年間を通じて決めてったらいいと思うのです。草やただゴミを拾うだけじゃなくて、草刈もあるし。それについてもうちょっと。

団体委員

じゃあそれについてはいろんな経過があって、こういう形に今なっているんですけど、八王子市さんの方の状況が変わっていると幸いなのですが。どうします。

行政委員

お答えできなくて申し訳ないですけど。

団体委員

八王子市さんの方で始めた時にお願いをしたら、八王子の方では浅川っていうかみんなの川の清掃デーが 9 月にあって、それは美しい八王子を作る会にお願いをしているので、八王子市としてはそれ以外の所からのことをそちらにお願いしているにも関わらず、することはできないと。だからここの所にチラシの方にも多摩川流域懇談会、浅川部会なんて書いても誰もわからないから八王子市とか日野市とか入れたいという話もしたのですが、八王子市の方ではその時点において非常にそれは困ると。立場上困るからそれはやめてくれという話で、こんなことになっているのですが。それがなくなっていると非常にもう大分 9 回目にもなりますし、10 年近くも経っているんで、こういうことがないととてもうれしいのですが。もしそういう状況がなくなっているようでしたら、またいつでもお願いに行きたいなと思っています。現状ではこれなので、私の方に連絡先担当者とゴミの件については八王子市さんの方で。あと広報載せることについては連絡をお願いしたいと思います。

行政委員

あとゴミ袋。京浜さんと確認させて頂いてということですか。

団体委員

はい。ゴミ袋も。宜しくお願い致します。だいたい以上のことです。すいません。なんか時間を取らせてしまいました。以上のような状況です。

座長

9回目ですから、何度か私も1回から参加しております。みなさんにご協力お願い致します。一応レジメにある議題と報告終わりましたけど、せっかく国土交通省さんの方で何かありますか。お知らせというか。

行政委員

特に今回はないです。今日の議論は非常によかったと思ひまして、皆さんは浅川圏域ということで、全体を通して皆さんの意見が一致して同じ方向になっていけばいいのかなと思っています。宜しくお願いします。

座長

あと何かございますか。PRも含めて。よろしいですか。

あと皆さんから何かお知らせしておきたいとか、何か催し物のPRとかありますか。

団体委員

いいですか。

座長

はい。団体委員さんどうぞ。

団体委員

4月2日、3日浅川河川敷で第4回の八王子桜祭りを開催しますので、浅川をみんなできれいにしようという訴える会で、市内のいろいろ各団体、会社、皆さんが賛同されてね、みんなで浅川をきれいにしようといういろんな楽しい催し物も組んでおります。4月の2日、3日。土曜、日曜。八王子高校、それから片倉高校、それから各中学校の吹奏楽とか、それからオランダで5位になったダンシングチームなんかも出ます。あと親父バンドとか。

座長

はい。わかりました。他はよろしいですか。そうしましたら次回の開催です。

事務局

次回につきましては、先ほどのスケジュールの中で、準備会というか6番のスケジュールということで、準備会を23年5月ということで頂いています。日程につきましては5月23日が月曜日、24日が火曜日ということで、6時半からですね。予定しているのですが、多数決が。

座長

今のお話は、この連絡会の話と準備会を一緒にしちゃおうという。

事務局

我々のイメージだともうちょっと、今日煮詰まるかなと思っていたのですが。ここで準備会をやりたいなと思っていたのですが。PTということじゃなくなったので。

座長

これと一緒にしちゃったら。一緒にしない方がいいと思います。一緒にするとまた同じだと思います。前もって有志を集めた準備会は準備会でやっておかないと。もうこういうことでこのテーマで分科会を1つ、2つ、3つで行きましょうっていうような分科会でそっちは揉まないと。

事務局

じゃあ準備会を連休前位に開催できればと思います。それについて案内をお送りしたいと思います。5月23、24日にことは第1回の連絡会にしましょうか。

3 閉 会

座長

はい。2期の5回目ということでさっきの準備会とは別の話です。この会です。連絡会です。連絡会の2期の5回目になります。今提案されている日が5月23の月曜日か24の火曜日。時間は6時半ということで。都合の悪い方は挙手をお願いします。では23都合悪い方。都民委員さん。24都合悪い方。じゃあいらっしゃらないので、5月24の火曜日6時半、2期第5回ということで開催致しますので、宜しくお願いします。まだ事務局、日がはっきりしませんけど準備会は連休前ですね。連絡を皆さんにして、それは希望っていうのでしょうか、準備会を開催致しますので、そちらの方の連絡来ましたら、宜しくお願い致します。以上、今日はちょっと時間前に終わりましたが、ありがとうございました。